



(195)

小学校 高学年向け 年組

鳥山手すき和紙

福田 博子さん (54) 那須烏山



水を搾った紙を持ち上げる福田さん

原料の楮と粘性のある植物トロアオイ、井戸水が混ざった紙料をすくう「たぶん たぶん」乾燥板に貼り付ける。は

けでなで、空気を抜く。楮の繊維を生かした厚みのある丈夫さが特徴の鳥山和紙。明治期に全盛期を迎え、国の選挙の投票用紙に使われたこともある。しかし、機械で作る洋紙やビニール製品の広まりで減少。今では同社だけが伝統を引き継ぐ。

日ごとの条件、細心払い

じ紙はできない。そこが「難しき」。気温や水温、紙料の粘り気……。全ての条件が日によって変わる。それでも同じ品質を保てるのは、長年の経験があるからこそだ。実家の福田製紙所に入社したのは1993年。「作業場は遊び場とさえいえるくらい身近だった」。紙すき職人の道に進むこ

(富井太啓)



鳥山手すき和紙 県内外の学校の卒業証書や、伝統行事「山あげ祭」の野外舞台の背景画に用いられる。那須烏山市の鳥山和紙会館では封筒や便箋などを販売している。

日光彫

須藤 秀さん (74) 日光



彫刻刀で図柄を彫る須藤さん

彫りと塗り 手間の結晶

真つさらな木地に、細中、手元に向ける視線は、かな図柄が徐々に現れていく。彫刻刀で彫る小気味よい音が店内に響く。現は難しいね。柔和な表情でしみじみと話す。先端が曲がった独特の道具「ヒツカキ刀」を使っ

日光彫製造販売店「歌ヶ浜山田屋」に戻った。「技術は目で盗めという感じだった」と振り返る。塗りの工程では、漆を

日光彫 江戸期に日光東照宮の造営で集まった彫り物大工が、仕事の余暇で制作した事が起源とされる。盆や引き出し、壁掛けなどさまざまな木工製品に施されている。

の象徴とされるが、それだけではないという。丸彫りや浮かし彫りなど、先人たちのいろんな技術を含んだものが日光彫なんです。1本の線を彫るのにも細さや深さ、使う道具によってさまざま。彫刻技術があり、その世界は奥深い。20代後半に会社員を辞め、家業である奥日光の

伝統工芸士…国や県の伝統工芸品の製造をしている技術者で、高度な技術・技法をもち、国や県に認められた人。

紙料…パルプなどを調合・溶解した、紙にすぐ直前の材料。工房…画家・彫刻家・工芸家などの仕事場。アトリエ。

木地…木彫りなどの細工をする材料の木を粗挽きしたもの。

家業…代々、その家に伝わってきた職業。また、世襲的に継承していく技術や才能。

設問

上の記事は「県北編 とちぎの巧みつなぐ匠たち 風土が育んだ技守る伝統工芸士」という見出しの特集記事から2名の伝統工芸士の記事を抜粋したものです。二つの記事を比べ読みして、次の設問に答えましょう。

【1】伝統工芸士(福田さん、須藤さん)が仕事をしている様子が書かれているところに棒線(——)を引きましょう。

【2】伝統工芸品(鳥山手すき和紙、日光彫)の説明が書かれているところに点線(……)を引きましょう。

【3】伝統工芸士(福田さん、須藤さん)が仕事を始めたときのことが書かれているところに波線(~~)を引きましょう。

【4】二つの記事を比べ読みして、気付いたことを書きましょう。